

6回目を迎えたOMM JAPANは登山やハイキングとして人気のある車山・霧ヶ峰のフィールドで開催されました。

本国UKと異なり、日本では競技エリアの特性により与えられる課題が毎回異なります。今回は立入制限が多い中、いかに参加者にチャレンジな時間を提供できるか、標高の高いエリアで低体温症を始めとしたリスクについて参加者の安全をどのように確保するかが競技チームの目標となりました。長野県オリエンテーリング協会、各地域オリエンテーリングクラブからのJOA運営スタッフと、安全管理については長野、群馬といった山岳界のスペシャリストが参加者のみなさんのチャレンジを見守りました。

コースと安全管理の詳細については小泉、村越のレポートをご覧ください。

## 競技を振り返って

いくつかの反省を次への改善とし、より良いものにしていきます。

### ・スコアミディアムクラス地図の記載

プログラムには競技時間を“30分”以上遅刻するとリタイア扱いとありましたが、地図には“1時間”以上遅刻と間違った記載がされていました。混乱したチームがあったかもしれません。1日目レース後気づき、2日目スタート前に訂正のインフォメーションを行いました。今後このような間違いがないようにします。

### ・立入禁止エリアの表記

行政の都合、地元の都合、危険箇所等、立入禁止のエリアは様々な事情があります。地図上にその表記をし、事前にプログラム記載、急遽イベントセンターやスタート前も手書きでアナウンスしましたが、それでも立ち入ってしまうチームがありました。立入禁止の表記については、参加者のみなさんが最も把握してほしいことの1つですが、地図作製側も工夫する必要があると、今後どのような表記をすればよいか検討し改善します。

### ・競技中の音声通話及びデータ通信

ルールでは競技中の通話、およびSNS投稿等のデータ通信は禁止しています。ただし例外として、緊急時とキャンプ地での使用は可能としています。緊急時はもちろんキャンプ地での使用は、2日間の過酷なチャレンジを応援・心配する家族や友人たちに、自らの安否を知らせることを目的としています。手軽に瞬時に投稿できてしまうSNS等ですが、ルール上、競技中は使用禁止であることをご理解ください。

### ・2日目ストレートクラス上位チームスタート時刻の指定

1日目ストレートクラス上位チームのスタートは、今回より本国UKにのっとりチェイシングスタート形式(1日目成績の良い順からスタートしていく)とし、スタート時刻を指定しました。6回目にして初めての試みだったため戸惑いがあったかもしれません。またキャンプエリアでは2日目のストレートクラススタート時刻の張り出しは行いませんでした。上位チーム、失格・リタイア以外はプログラム通りのスタート時刻としていましたが、覚えていないこともあるかもしれません。次回以降、周知するようにします。

### ・2日目スタートエリアの誘導

参加者がスタート枠に入って地図をとり合図とともに誘導テープに沿って進み、フラッグのある場所が地図

上の△となっています。しかしスタート枠の場所が地図上の△と間違い、誘導テープを辿らずに違う方向へいったチームが多くありました。スタート方法、コースの回し方等工夫が必要と感じています。

#### ・SIチップ本体とリストバンド

昨年の不具合数からの改善として、チップの向きを変更し、接合部分の強化について追加しました。今回SIチップを紛失したチームは2、1日目リストバンドが外れたチームは4でした。ルールにより失格となってしまったチームはとても残念で悔しいことかと思えます。リストバンドをつければ絶対的な安心感を持つのは当然なことだと思います。すべてのチームが気持ちよくレースに臨めるよう改善をしていきます。

#### おわりに

日本でのOMM立ち上げから5回目の昨年で競技運営が安定したのを踏まえ、今回から本国で取り入れられている方法を取り入れました。これから先も少しずつ変わっていく可能性があります。本国と全く同じようにはできないにしろ、理念は同じくありたい。参加者のみなさんとともに私たち運営者自身もチャレンジングでありつづけていたいと思います。

最後に、2日間フィニッシュを目指しチャレンジし続けた全ての参加者のみなさんに敬意を表します。また、OMMを愛するボランティアの方々、混乱なくスムーズな運営に徹した競技スタッフ、参加者を見守り続けた安全管理チーム、イベント成功のために尽力した実行委員会の面々、すべての方々に感謝とお礼を申し上げます。

ありがとうございました。